

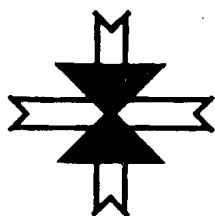
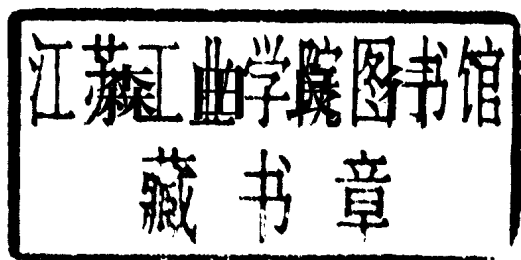
誤用文の分析と研究

―日本語学への提言―

森田良行

誤用文の分析と研究

—日本語学への提言—



明治書院

誤用文の分析と研究—日本語学への提言—

定価 2200 円

昭和 60 年 9 月 20 日 初 版 発 行

著 者 © ^{もり}森 ^た田 ^{よし}良 ^{ゆき}行

東京 都 千代田区 神田 錦町 1-16
発 行 者 三 樹 彰

長 野 県 長 野 市 中 御 所 2-30
印 刷 者 田 中 忠

発 行 所 株式会社 明 治 書 院

〒101 東京 都 千代田区 神田 錦町 1-16

電話 東京 292-3741 (代)

振替口座 東京 3-4991 番

3081-20269-8305

大日本法令印刷・正文社製本

目 次

第一章 発想に関する誤用の問題

①	彼女は涙が出るほど喜んでいた	2
②	いい成績を収めるのに努力しなければならない	7
③	青空とはいいいながら雨が降っています	14
④	荷物が重くて持ってください	20
⑤	大きそうな魚のいる池です	25

第二章 表現に関する誤用の問題

①	入口がわからなくできる方法	32
②	順序を入れ替えができる	38
③	夜店へ見に行きました	44
④	父は散歩しに行きました	49

- ⑤ あの家の隣になります……………55
- ⑥ 私は要りません。持ってください……………61

第三章 語義に関する誤用の問題

- ① 自転車を押して坂を下りました……………68
- ② 日本へ来て三年以内になります……………74
- ③ この本はまずいくらですか……………80
- ④ まさか良くなりませんと思います……………85
- ⑤ それは私には知りません……………92
- ⑥ 病気は快方へと向かう一方だ……………98

第四章 語の使い方に関する誤用の問題

- ① 猫が近いので鼠は隠れます……………104
- ② 授業は五時半過ぎに終わります……………108
- ③ あしたのうちに書き上げなければならぬ……………112

第五章 文型に関する誤用の問題

④	教室の中で勉強します……………	118
⑤	はい、私は存じます……………	123
⑥	電話を掛けようとしたが、掛からなかった……………	129

第六章 動詞の自他に関する誤用の問題

①	困難を打ちかたなければならない……………	172
②	何にそんなに慌てるんですか……………	178
①	きのう公園へ行った約束をしました……………	136
②	あの人のテニスは上手です……………	142
③	三人以上の学生はいません……………	149
④	ビールをコップと持って来い……………	155
⑤	何時に電話を掛けていいですか……………	160
⑥	先生に北京を案内しました……………	165

- ③ 自転車を上手に乗る人……………183
- ④ 危ない所が助かった……………188
- ⑤ 身ぐるみ剥がれた……………191
- ⑥ あわてて外へ飛び出しました……………198

第七章 受身表現に関する誤用の問題

- ① 見つけないように隠れました……………206
- ② 新たな局面を開きました……………212
- ③ 私の財布はすりにすられた……………217
- ④ 彼は病院に運んで行かれた……………224
- ⑤ 人々の生活に影響が来たされている……………231

あとがき……………235

索引

事項索引 240
語彙索引 251
文型目録 258

第一章

発想に関する誤用の問題

① 彼女は涙が出るほど喜んでいた

筆者はかつて中国の天津外国語学院の講堂を借りて学術講演をおこなったことがある。それからさほど日を経ぬある日、筆者のもとに一通の質問状が届いた。差出人は天津市在住の日本語研究者の一人で、某大学で日本語の講座を担当しているという。文面によれば、教え子たちの作文の中には「彼女は涙が出るほど喜んでいた」といった種類の表現がしばしば見られるが、自分の言語感覚ではどうも不自然な日本語に思えてならない。一体この表現は日本語として許容されるのだろうか。また、もし誤用だとしたら、どうして日本語ではこの種の表現が正しくないのか教えてほしいという内容の手紙であった。この手紙の差出人はさらに「涙が出るほど」というのは、(ア)実際に涙の出ている状態なのか、それとも、(イ)まだ出ていない状態なのか、あるいは、(ウ)それを問題にしない単なる比喩表現なのか教えてほしいと言い、自分は、(カ)なら「涙を流しながら喜んでいた」と言い、(ク)なら「涙を流さんばかりに喜んでいた」と言うであろうと述べ、(ケ)(コ)のどれか「中国の学習者はよくこういうことを問題にします。質問された場合どう説明すべきでしょうか」ということばで結ばれていた。

ところで、日本語の表現には、一種の慣用として、句と句の結び付きの固定した言い回しがいろいろ

るある。「……ような」とか「……ばかり」「……ほど」などで表される状態形容や程度強調の比喻表現には特にが多い。

「涙が出るほどうれしい」「死ぬほどつらい」「のどから手が出るほど欲しい」「いっそ死んでしまいたいほど苦しい」「手がちぎれるほど冷たい」

「手足のふしぶしが抜けるほどだるい」

(石川達三「深海魚」)

「兄の立ち上がったのを見た時には身慄いが出るほど怖ろしくて」(佐藤春夫「お絹とその兄弟」)
「吹きさらしのホームに立ちっぱなしの仕事は、何年たっても泣きたくなるほどつらい」

(朝日新聞「職場パトロール、売れて目が回ります」)

ここに掲げた用例は、いずれも感情または感覚の形容詞に係る場合である。これら自発的な感情・感覚を表す形容詞を終止形のままで言い切りに用いると、話し手自身の感情や感覚を表すということによく知られている。日本語には話者側の内発的な表現と第三者の心理状態を説明的に述べる表現とで形式を区別する一群の語があり、右の感情・感覚形容詞も「……せずにはいられない」「……ざるを得ない」「……たくてたまらない」などの句とともにその一つである。「涙が出るほどうれしい」も一人称表現「私は涙が出るほどうれしい」で、「彼女は涙が出るほどうれしい」とはならない。これは「つらい、ほしい、だるい……」などその他の例でも同じである。

一方、これら「AはBほどCだ」の形でおこなう状態形容には、「(私は)飛び上がるほど驚いた」

のような、B・Cが共に主体Aに関する事態である（同一主体形容型」と、「（私が）しゃくにさわるほど（彼女は）美しい」のような、B・Cで主体を異にする（他主体形容型」との二種がある。他主体形容型は、

「そっと目を開けて見ると、あたりは驚くほど明るく」

「病人とは思えないほど息のつづく流行唄の音が聞こえたが」

（平林たい子「施療室にて」）

「孔のあくほどまじまじと視入るのだった」

（長与善郎「地蔵の話」）

のように、「第三者である私がBとなるほど、その対象はCだ」（彼女は憎らしいほど奇麗だ／あきれるほど食う奴だ）か、あるいは、「対象がBとなるほど、その主体はCだ」（穴のあくほど見つめる）の二つのタイプがある。特に前者は三人称主体の状態形容となるのが普通である。したがって標題の、

彼女は涙が出るほど喜んでいた。

も、「彼女は、こちらが見ていて涙が出るほど、喜んでいた」という他主体形容の状況設定が許されるなら、成立可能な文となるわけである。ただし、そのようなことは有り得ないが。

では、同一主体型で、しかも三人称主体とするにはどうしたらよいか。先の、

私は涙が出るほどうれしい。

をただ「彼女は」に換えたのでは、感情表現のルールとして「彼女は」「うれしい」と抵触する。そこで三人称主体の述語に見合うよう、「うれしい」を動詞表現に変えて、

彼女は涙が出るほど喜んだ／喜んでいる。

とすればいいと単純に思い込んでしまう誤用を犯す。だが、先に見たように、これではB・Cの主体が異なる他主体形容型となって具合が悪い。三人称表現で、しかも同一主体形容の言い方に何かないだろうか。幸い日本語には、

「オイどけといわんばかりに小犬を追ひ払った」

(高見順「流木」)

「若い衆はまた『せえッ!』とばかりにお辞儀をして」

(井伏鱒二「集金旅行」)

「新子は一瞬その白小袖に、ほんとうの血がはしかったかと思うばかり、心をうたれた」

(船橋聖一「篠笛」)

に見られるように「……ばかり(に)……する」という表現形式がある。これなら主語が三人称で、B・Cが同一主体でもかまわないから都合がよい。そこで、

彼女は涙を流さんばかりに喜んだ。

という文が得られることになる。

以上のことは「私は―うれしい／彼女は―喜ぶ」のように、感情・感覚表現が人称と関係して使い分けられているという日本語の問題から発している。例示による現在状態の形容として、他主体形容型の文型を同一主体に転用した「彼女は穴があったら入りたいほど恥ずかしがっていました」という留学生の作文例に筆者もぶつかったことがある。人称による使い分けは感情・感覚形容詞以外にも見

られる。「腰が抜けるほど驚いた」「痛いほどよくわかる」と言えば話し手自身の状態。三人称なら「彼は腰を抜かささんばかりに驚いた」と「ばかり」を使って表すであらう。「わかる」のほうは「彼には痛いほどよくわかるのだ」と「の」を付けて表現を客観化しなければならない。

最後に、質問者が出した例

彼女は涙を流しながら喜んでいた。

も、日本語らしさという点では失格であることを言い添えておこう。そもそも、同時進行「ながら」は「涙を流しながら語る」のように動作性動詞が来てこそ自然で、「喜んでいた」のような精神作用の状態性には向かない。(本来は「涙ながらに語る」と言うべきであるが。)表現レベルの組み合わせの不自然さも広義の誤用というべきであらう。

② いい成績を収めるのに努力しなければならない

誤用文にぶつかったとき、それが誤用であるということは、日本人ならだいたい判断がつく。だが、その誤用文が何の誤用なのか、誤用文を誤用でない正しい形に戻すことはかなり熟練を要する。誤用文を見て誤用の過程を見抜き、誤用者が能力的に欠けている部分を指摘し、学習させ、再びそのような誤用を犯さないよう指導することは、なおむずかしい。これは教育経験だけではなく、日本語に対する深い知識と洞察とが必要だからである。

筆者が標題の誤用文に最初にお目にかかったときも、この文の作者はいったい何を取り違えて誤用文を作ってしまったのか、すぐには理解がつかなかった。ためしに

いい成績を収めるのに、もっと努力しなければならない。

という文を日本人学生に示して修正を求めたところ、返って来た多くの答は、「のに」を「ために」ないしは「ためには」に置き換えて

いい成績を収めるために、もっと努力しなければならない。

とすることであった。確かに

町へ出掛けるのにバスを利用しています。

は「ために」に置き換えて、

町へ出掛けるためにバスを利用しています。

と言えなくはない。しかし、「ために」では妙に理屈っぽく聞こえるし、第一「バスを利用している」といった日常の行為よりは

きのうは買い物をするためにバスを利用した。

のような特定の一回行為、それも目的意識のはっきりした「買い物」のような行為のほうがびったりする。町へ出掛けること自体が目的とはなりにくいからである。

今いい職を捜すのに奔走している。

今いい職を捜すために奔走している。

など具体的な目的行為なら「……のに／……ために」両形式成り立つであろう。

なるほどこう見て来ると、学生たちの言うように、先の誤用例も「ために」とすべきところの誤用であったかのように思えてくる。しかし、「ために」で表される文型は

食うために働く。

単位をもらうためにレポートを提出した。

いい成績を収めるために毎日勉強に励んでいる。

小遣いをアップしてもらうために親爺のご機嫌を取った。

「AのためにBする」の形で、「Aを実現する目的でB行為がなされる」状況の説明文となるのが自然である。だから、

いい成績を収めるために、

と来たら、後続句は

努力する／努力したい／頑張りたい／努力しているのです／努力しなければならないのだ／努力しなければならないかった。

のような具体的行為を指す形式ならもちろん自然な日本語となる。しかし、原文のような「……努力しなければならない」という観念的な条件づけの叙述では、むしろこれに「は」を一つ加えて「……ためには」とするほうが、表現が落ち着く。

いい成績を収めるためには、もっと努力しなければならない。

食うためには働かねばならぬ。

本を借りるためには手続きが必要だ。

さて、これで一件落着くと思われるであろうが、どうも筆者には納得できない。「……ためには」に修正することによって正しい日本語となり、作者の意図する内容の表現になったわけであるから良しとしなければならないのであるが、果たしてそれでよいのであろうか。作者の誤用形態から推して、

作者のねらいに最も近い形に修正してやることが本道であろう。あなたの日本語はおかしい。こう直しなさいと自分の好みの表現を押しつけることは、誤った用い方の軌道修正ではなくて、全く別のもとの交換ではない。それでは、それが誤りであることはわかったとしても、その誤りをどう訂正していけばよいかの方法を教えたことにはならない。誤用の修正はなるべく小量に抑えて、作者の意図、つまり原文の形からできるだけ離れぬようにするのが望ましいことである。その外国人は

いい成績を収めるのに、もっと努力しなければならない。

と「……のに」を用いたのであるから、恐らく本人の頭の中には「のに」にかかわる一連の言い方があって、それとの関連で右のような文作りがなされたのであろう。「ため」をうっかり「のに」にしてしまったとは到底考えられない。

動詞句を準体助詞「の」で括って、それを格助詞「に」や「を」「と」などで受ける言い方は日本語学習でいろいろ学ぶが、たとえば次のような例

本を借りるのに必要な手続き

木を伐るのにノコギリが必要です。

では「AするのにB」の文型で、「Aの行為を実現するためにBが要求される」という意味を表す。これから推して、いい成績を収めるということの実現のために努力が要求されるという先の誤用文が自然と出来てこないだろうか。だが、どうして本を借りたり木を伐ったりする文が正しい日本語で、